

## JAILA Journal 執筆要領

### 1. 論文の種類

日本国際教養学会（JAILA）は、グローバル化が加速する現代社会において真に必要とされる知識と教養を共有することを目的として設立された学会である。本誌では特に、（1）教養教育、（2）グローバル人材の育成、そして（3）多様な学術分野の交流を促す学際的研究に関連する優れた論文を掲載する。

### 2. 使用言語

使用言語は英語または日本語とする。

### 3. 論文提出方法

投稿論文の提出は電子的に行い、事務局保管用と査読用をそれぞれ1部ずつPDF化して、下記に示すJAILA Journal 事務局のアドレスに電子メールで送ること。

[office@jaila.org](mailto:office@jaila.org)

事務局保管用は完全原稿のPDFとする。査読用は氏名と所属機関名を削除し、注や謝辞等において執筆者を特定することが可能と思われる記述及び科学研究費等による研究への言及を削除したもののPDFとする。

なお、論文提出時に、論文題目（英文原稿の場合には、英文題目とその和訳、和文原稿の場合には、和文題目とその英訳）及び氏名（日本語・漢字とそのローマ字ないしはアルファベットとそのカタカナ）、所属機関、電子メール以外の連絡方法をメール本文で提出すること。

### 4. 論文提出の締め切り

論文の提出締め切りは原則として当該年度の10月末から11月末のいずれかの期日とするが、詳細についてはウェブ上で公開される指示に従うこと。

### 5. 論文受領確認手続き

JAILA Journal 事務局に届いた論文原稿のPDFに対して、3日以内に事務局から論文受領の確認メールを届けるので、必ず了解の旨の返信をすること。原稿PDF送信後、3日経っても事務局から論文受領の確認メールが届かない場合には、すみやかに事務局に問い合わせること。

### 6. 論文の構成

論文の構成は、各専門領域の一般的なスタイルに従うこと。ただし、論文題目、執筆者氏名、所属機関名、要約、本文、注、引用文献等の順序は専門領域に関係なく共通とする。具体的には、以下を参照のこと。

(1) 論文題目：英文原稿の場合は英文題目のみ、和文原稿の場合には和文題目とその英訳を書くこと。

(2) 執筆者氏名：英文原稿の場合は、名・姓の順とし、姓は大文字とする。和文原稿の場合は、ローマ字（Times New Roman [以下、Timesと略す] 14ポイント）による表記も添えるが、その表記法は英文原稿の場合と同じとする。

(3) 所属機関名：和文原稿の場合は、その機関名の英訳を添えること（Times12ポイントでイタリック体）。

(4) 要約：要約は英文原稿とも和文原稿とも、英語で書くこととし、長さは10行～15行とする。

(5) 本文：要約の次に空白行を1行挿入し、その次の行から本文を書き始めること。和文原稿の場合、句読点、カギカッコ（「」）等は1文字に数える。各セクションの見出しは太文字を使い、センタリングするとともに、上下に1行の空白を設けること。セクション内の小見出しも太文字とするが、左寄せとする。

## 7. 論文原稿の書式

### (1) 用紙サイズ及び行数と1行の文字数

用紙サイズはA4版とし、上下40ミリメートル左右25ミリメートルの余白をとり、1ページ38行とする。1行の文字数は45文字とする。以上は、本文だけでなく、注と引用文献にも適用される。ただし、図表、グラフ、付録については、行間等を適宜調整してもよい。なお、論文執筆の際はJAILAウェブ・ページ上で公開されているテンプレートを使用すること。

### (2) ページ番号

論文原稿にはページ番号をつけないこと。

### (3) 本文等のフォントとサイズ

本文、注、引用文献に使用するフォントとサイズについては、英文原稿の場合はTimes12ポイントとし、和文原稿の場合はMS明朝で10.5ポイントとする。図表、グラフ、付録については、英文も和文も、サイズを10ポイントまで下げることができる。ただし図表、グラフ、文字、数字が小さくなりすぎないように注意すること。

### (4) 論文題目等のフォントとサイズ

項目／原稿種別	英文原稿	和文原稿
論文題目	Times 18ポイント	MS明朝18ポイント
論文題目英訳		Times 18ポイント
執筆者氏名	Times 14ポイント	MS明朝14ポイント
執筆者氏名ローマ字		Times 14ポイント
所属機関	Times 12ポイントでイタリック体	MS明朝12ポイント
所属機関英訳		Times 12ポイントでイタリック体

項目／原稿種別	英文原稿	和文原稿
要約見出し	Times 12ポイントでボールド体	Times 12ポイントでボールド体
要約(Abstract)	Times 12ポイント	Times12ポイント
本文セクション見出し	Times 12ポイントでボールド体	MS明朝12ポイントでボールド体

#### (5) 原稿の総ページ数

原稿の総ページ数は、本文、注、引用文献、図、表等を含め、原則として12ページを限度とする。図や表等は原稿内にレイアウトすること。ただし、原稿提出前に編集委員会の許可を得る限りにおいて、最大3ページまでの分量増が認められる場合がある。

#### (6) 注と引用文献の書式

注と引用文献の書式は*Publication Manual of the American Psychological Association* (American Psychological Association) の第6版に準拠すること。引用文献については、下記の例を参考のこと。

[英文原稿の場合] (和文図書は書名をローマ字で記載し、英訳をつける。)

Canale, M., & Swain, M. (1980). Theoretical bases of communicative approaches to second language teaching and testing. *Applied Linguistics*, 1, 1–47.

Ellis, R. (2008). *The study of second language acquisition*. Second edition. Oxford: Oxford University Press.

Kuno, S. (1978). *Danwa no bunpo* [Discourse grammar]. Tokyo: Taishukan-shoten.

Bygate, M., & Samuda, V. (2005). Interactive planning through the use of task-repetition. In R. Ellis (Ed.), *Planning and task performance in a second language* (pp. 37-76). Amsterdam: John Benjamins Publishing Company.

[和文原稿の場合] (和洋図書が混在する場合、和書を先に書く。)

小林春美・佐々木正人 (編) (1998). 『子供たちの言語獲得』 東京：大修館書店。

高田智子 (2005). 「小学校英語教育経験者の中学入学以降の文法獲得」 『関東甲信越英語教育学会紀要』 第19号, 35–46.

Canale, M., & Swain, M. (1980). Theoretical bases of communicative approaches to second language teaching and testing. *Applied Linguistics*, 1, 1–47.

#### ※DOIのある学術論文

Laufer, B., & Nation, P. (1999). A vocabulary-size test of controlled productive ability. *Language Testing*, 16 (1), 33-51. doi: 10.1177/026553229901600103

#### ※DOIのない学術論文

Hirsh, D., & Nation, P. (1992). What vocabulary size is needed to read unsimplified texts for pleasure? *Reading in a Foreign Language*, 8, 689-696. Retrieved from <http://nflrc.hawaii.edu/rfl/PastIssues/rfl82hirsh.pdf>

・オンラインから得た情報にDOIがない場合には、その学術誌のウェブサイトURLを書くこと(検索日は必要ない)。

## 8. 論文投稿における注意

(1) 本ジャーナルへの論文投稿の資格を持つ者は、前年度の3月末（2015年3月発行の創刊号の場合、2014年3月末）までに日本国際教養学会（JAILA）の会員として登録された学会員に限る。ただし、共著の場合の第二著者以降については、編集委員会が妥当と認めた者である限りにおいて、学会員であることを求めない。また投稿は一人2編までとするが、2編の論文にわたって第一著者になることはできない。

(2) 投稿論文は未公開のものであり、他所で掲載審査中でないものに限る。

(3) 投稿論文は所定の執筆要領に従って作成する。執筆要領に違反するものは審査の対象外となることがある。

(4) 英文原稿は英語母語話者または同等の英語力を有する者によるチェックを必ず受けること。

(5) 統計処理を用いた論文の場合は、投稿前にその処理の適切性および統計値の解釈の妥当性を十分に確認した上で投稿すること。

(6) Proceedingsに投稿している研究であっても論文として新たに本ジャーナルに投稿することができる。

(7) 調査を行った研究は調査参加者のinformed consentを取ること。

(8) 文章等を引用する場合には著作権元から許可を取ること。

(9) 提出の締め切りに間に合わなかったものは受理しない。

(10) 投稿論文はジャーナル編集委員会が選出した3名の査読委員により審査され、その結果に基づいてジャーナル編集委員会によって掲載の可否が決定される。なお、掲載が認められた論文について、審査の結果に基づいて修正を求める場合がある。

(11) 審査結果は、当該年度1月末までに投稿者（代表者）に通知される。なお、審査結果に関する問い合わせは受け付けない。

(12) ジャーナルの出版は電子版のみとする。日本国際教養学会（JAILA）のウェブ・ページ上で公開する。

## 9. 掲載論文の著作権について

(1) 本ジャーナルに掲載された論文等は無断で複製あるいは転載することを禁じる。著作権は日本国際教養学会（JAILA）に属し、複製あるいは転載する場合には文書による承諾を受けることとする。

(2) 日本国際教養学会（JAILA）は、投稿論文等を印刷物または電子媒体により再出版または再配布する権利、および論文の題目・概要を日本国際教養学会（JAILA）ウェブ・ページに掲載する権利を保有する。

(3) 本ジャーナル掲載論文著者所属の機関レポジトリを通じて公開が求められた場合、著者本人とジャーナル編集委員会事務局の事前の了解があれば、これを認めることとする。

(4) ジャーナル編集委員会事務局の了解は、著者本人あるいは機関レポジトリ担当者が、事前に文書・電子メールで得ることとする。

(5) 機関レポジトリを通じて公開する原稿は、著者本人が保有する最終稿（査読を経て掲載が許可された原稿）の電子ファイルとする。

(6) 公開の際には、「本論文の著作権は日本国際教養学会（JAILA）に属する」ということを明記する。

(7) JAILA Journal掲載論文を著者個人のWeb サイトから公開することは、原則的には認めない。